

平成 30 年度

視察等の届出・報告書

(届出番号 14~16)

平成 30 年度 視察等の届出・報告書 (14~16)

届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
14	11/25~26	河部辰夫	築澤敏夫・初本勝	山口市(全国過疎問題シンポジウム2018 inやまぐち)

様式第1号

平成30年10月24日

真庭市議会
議長 長尾 修 殿

真庭市議会議員

糸原 会長
河部 辰夫 (河部)

調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先

銅温疎肉題3/10/20/21/22/23/24/25/26

3 内 容

近所地区の課題等について話し合い、
真相を明らかにし、関係機関等に
働きかけを行うこととする。

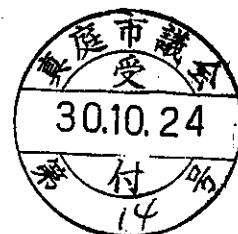
4 行 程

別紙のとおり 車での移動、中国道利用
11/25~26

5 事務局から訪問先への依頼 必要 不要

参加議員 河部 辰夫 1名

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。



議長 副議長 局長 GL 係 回覧



報告書

平成30年11月23日

真庭市議会議長 長尾 修 殿

報告者 議員氏名 緑真会 築澤敏夫

下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をしましたので、その結果を報告いたします。

1	日 時	自 平成30年 10月25日 (午前・ <u>午後</u>) 13時00分 至 平成30年 10月26日 (午前・ <u>午後</u>) 14時30分
2	場 所	山口県総合保健会館多目的ホール (山口県)全体会 分科会 第3分科会(岩国市) ハーモニーみわ
3	用 件	「全国過疎問題シンポジウム 2018 in やまぐち」 田園回帰～地方に若者を呼び込む～
4	概 要	過疎地における課題である、人口減少や少子高齢化は現在では、日本全体が直面の問題であることから、過疎地域のさまざまな取り組みについて、あらためて議論を深め、優れた取り組みふれ相互の交流を図る将来に向けた取り組みを考える契機とするため、「全国過疎問題シンポジウム 2018 In やまぐち」開催 大会 テーマ 田園回帰 ～地方に若者を呼び込む～

報告書 (継紙)



全 体 会 (総合保健会館多目的ホール)

ア) 開会式

開会宣言 萩市長
主催者挨拶 総務大臣代理
歓迎挨拶 山口県知事
来賓挨拶 自由民主党過疎対策特別委員会委員長
全国都道府県議会議長会会長 山口県議会議長

イ) 平成30年度過疎地域自立活性化優良事例表彰式

団体 総務大臣賞 北海道・静岡県・広島県・山口県4団体
全国過疎地域自立促進連盟会長賞 5団体の中 真庭市
岡山県真庭市 中和地域づくり委員会
持続可能な地域を目指して始まった
「中和いきいきプロジェクト」
～地域資源循環と移住者と地域で織り成す小さな里山資本主義

ウ) 基調講演

「田園回帰の時代
～人と仕事を取り戻すI%戦略」
講師 藤山 浩 氏 持続可能な地域社会総合研修所長

エ) パネルディスカッション

「田園回帰～地方に若者を呼び込む～」
「ぼくらは地方で幸せを見つける」議論
コーディネーター 指出一正 氏 「ソトコト」編集長
パネリスト さかきだ みどり 氏 農業ジャーナリスト
農業・食・環境問題の分析、地域と農家未来づくりを考える
ヒビノ ケイコ 氏 4コマ漫画エッセイスト・作家
高知県に移住、子育てしつつ自然派工房・山カフェをオープン、創造性の専門的な切り口から、講座研修執筆し発言。
松島 ただし 氏 瀬戸内ジャムガーデン代表取締役
ジャム専門店瀬戸内の島周防大島にて創業。耕作放棄地を借り受け自社農業部門を立ち上げイチゴ等生産し6次産業実践。
藤道 健二 氏 山口県過疎地域対策促進会長・萩市長
株)信用銀行、中小企業金融公庫勤務後、萩市長に就任2年

オ)第3分科会(パネルディスカッション)

テーマ 地域みがきが人を呼ぶ～関係人口を増やす～
コーディネーター 檜谷 那茂 氏(小さな拠点ネットワーク監事)
パネリスト西塔 大海氏(企画代表慶応研究員・福岡県地域おこし隊)
地元関係者 舞田敏和氏・寺本隆宏氏・谷口和正氏・梅川仁樹氏4名
野村浩昭氏(岩国市中山間地域振興課長)

解 散

基 調 講 演

「田園回帰の時代 ～人と仕事を取り戻す1%戦略～」

講 師 藤 山 浩 氏 持続可能な地域社会総合研究所所長

現在、人口減少に悩む地方の多くの地域では、待ったなしで人口の取り戻しが求められる状況にある。私は人口安定化を実現するためには、UターンIターンによって年間に地域の人口の1%程度の定住増(人口の取り戻し)を実現すればよいこと、そしてその定住家族を養うために地域において1%の所得増が求められることを、具体的な目標として提唱された。

地域経済が衰退してきた真の原因は、むしろ、中から外へとどんどん所得が流失しているところにあると考えています。そして、地域経済循環、つまりもっと地域の中でお金がぐるぐる回る仕組みをつくるのが、地域の所得増加(取り戻し)の確実な一歩と考えているのです。

特定の産業でいくら地域外から稼いだとしても、「穴の開いたバケツで水を汲む」ようなものです。

次には、どうしたら地域の所得を取り戻せるのか、域内生産を高めることのできる食料やエネルギー分野を中心に考えていきます。そして、地域経済循環を考える体制づくりや福祉なども含めた地域全体におけるお金の流れも論じていきたいと思います。最後には、今後求められる持続可能な地域社会を実現する長期的な構想についても紹介された。

④ 必要な地域経済診断の全体像

- 地域経済循環分析のプロジェクトの紹介、— 人口・経済・環境の総合持続性へ —
地域経済振興と人口安定化・環境保全を連動させて分析する手法を提示し、地方自治体における分析と長期的なシミュレーションの実例を説明された。

⑤ 分野ごとの診断や問題解決のアプローチ

- 地域版家計調査で中山間地域の、暮らしと経済を組み立てる。
定住促進につながるシミュレーションシステムや高校統廃合の影響評価など多彩な活用事例も話された。
- 食の地裁知症で所得を取り戻す。
食を地元に取り戻すチャレンジを、スーパーマーケットやパン・野菜、都市圏いった多様な角度から考えていきました。
- エネルギーの地産地消で所得を取り戻す。
再生可能エネルギー導入、真に地域経済に貢献し得る活用手法を探っていきます。
住民が主人公となる活用・投資を考えていきます。
地域主導の地域エネルギー活用の国内事例 岡山県・真庭市バイオマス発電所

⑨ 地域全体をつなぐ主体形成

◦ 地域の消費を変えてよりよい未来づくりを

経済・人口・環境の持続性を継続的に考えるなか、地域での取り組みのなかから見えてきた「仕掛け方・進め方・広げ方」紹介。

⑩ 地域ぐるみの全体最適を目指して

◦ 連結決算で幸せを支える。 地域ぐるみの共生、最適化へ

単独決算では、見えてこない地域全体の連結決算。福祉・農業・交通・商業などのを横断的に結び付け、トータルな利益を創出する事例を紹介。

⑪ 未来への確かな展望をひらく

◦ 持続可能な地域社会を創る30年構想プラン

新しい循環の経済が支える持続可能な地域社会への転換には、1世紀・30年をかけていけば十分その可能性があることを論じたうえで、具体的な地域構造の設計や構築手法についてまとめていきます。

単なる精神論や理想論としてだけでなく、地域住民が、目の前の個別の利益だけに惑わされず、長い目で分野を超えた地域ぐるみの全体最適を目指すとき、そこに持続可能な共通の利益が生まれ得るという事実なのです。

どうか、持続可能性への30年を始めようではありませんか。

持続可能へ有意義な講演でした。

平成 30 年度 視察等の届出・報告書 (14~16)

届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
15	11/1~2	河部辰夫	入澤廣成・氏平篤 正・緒形尚・築澤敏 夫・初本勝	京都府舞鶴市 (第 1 2 回全国水源の里 シンポジウム)

平成30年10月29日

真庭市議会
議長 長尾 修 殿

真庭市議会議員

河部辰夫 (印)

調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区 分 調査研究 (研修会) 要請・陳情活動

2 訪 問 先

第12回合同 水原の里3/2037ム

京都市舞鶴市学芸2024

舞鶴市総合文化会館研修会

3 内 容

「農山漁村と都市の未来」

4 行 程 (自印車利用)

別紙のとおり

11/1~2

河部辰夫・河部 勝・柴澤敏夫
入澤慶成・代平 芳正・緒形 前

5 事務局から訪問先への依頼

必要

(不要)

以上6名

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。



議長



副議長



局長



GL



係



回覧




様式第2号

報告書

平成30年11月3日

真庭市議会議長 長尾修様

報告者 真庭市議会議員 氏平篤正 
(同行：河部辰男 初本勝
築澤敏男 入澤廣成 緒形尚)

下記のとおり、政務活動費を使用して、調査研究・研修会・要望陳情活動をいたしましたので、その結果を報告します。

1 日 時

自 平成30年11月1日 午後1時
至 平成30年11月2日 午後1時

2 場 所

京都府舞鶴市
舞鶴市総合文化会館
舞鶴赤れんがパーク4号棟
舞鶴市杉山地区

3 要 件

第12回全国水源の里シンポジウム
「農山漁村と都市の未来」
～これからの共生の形～

4 概 要

13:00 オープニングとして京都府立東舞鶴高等学校書道部16名が書道パフォーマンスをみせた。「晴耕雨読」や「私たちの舞鶴に帰ろう」と書いた。スクリーンには高校生が作った市のPR動画が流れた。



- 13:15 開会式典：舞鶴市長、綾部市長、京都府知事代理、舞鶴市議会議長、総務省過疎対策室長があいさつをした。市議会議員は26名中3名の出席であったので、なぜ少ないのかと市職員に問うと選挙前ですかねえと答えた。それにしても少ない。
- 13:30 フォトコンテスト表彰式と日本写真著作権協会 田沼武能会長の講評。過去最高の682点の応募があり、川底をのぞき込む2人の少女の姿が特選に選ばれた。入賞作はロビーに展示された。
- 14:05 基調講演：講師は東京大学名誉教授の大森彌氏による「農山漁村と都市の共生」。幼少期の疎開の話、生活保護、夜学、酒の話から聴衆を呼び込み、養老孟司の死、脳の話から大自然の魅力を語り、全てが都市になると人々は滅びると言い、農山漁村体験は教育の中で義務づけるべきと語る。人口が減り集落が消滅すると書いた増田レポートはゴーストライターがいたと。今の日本の求人倍率は2.0倍近くあり働く場所があり、人手不足だ。政府が簡単に外国人を受け入れようとしていることが心配だ。少しの間は仲良くできるが、島国日本人は果たして共生できるかどうか？162自治体が水源の里の理念である「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」を説き、下流は上流に感謝しながら3度のご飯を食べる。農山漁村なくして都市の存続はありえないと結んだ。途中、週末住民の話や草刈応援隊の話はおもしろかった。愛唱歌のふるさととは立身出世の歌詞だが、最近志を果たして帰るのではなく、「志を果たしにいつの日にか帰らん」と歌う。
- 15:10 事例発表：舞鶴市長 多々見良三氏「広域連携・京都府北部地域連携都市圏の取組」。5市2町30万人都市圏の取り組みを海の京都と題して話した。中学校に行き、誇れる町、便利な田舎の話を授業として話している。脳卒中で倒れたが、脳外科があったので助かったと話したが、なぜ政治家としてマイナスな事を言うのかと聞いたところ、彼は医学博士で舞鶴共済病院の医院長だった。
- 事例発表：ローカルジャーナリスト 田中輝美氏「関係人口という新しい共生のカタチ」島根県浜田市で活躍。東京で働いている人がふるさとに貢献したいと言葉にする人は多い。彼らに貢献させてあげるべき。旅と移住の中間のことを関係人口と呼び、本を出した。この関係人口を増やすことに国が今注目している。JR全線制覇した鉄道オタクである。

16:00 パネルディスカッション

•コーディネーター：福知山公立大学准教授 杉岡秀紀氏、切っても切れない水平共生、AかBかではなくAとBとになっている。understandとは下に立つと言い、理解した。

•パネリスト：地域の実践者、舞鶴市西方寺平 霜尾誠一氏 移住して来た人に厳しくしないこと、厳しく言わないことが大切。変わり者が移住して来る訳だが、彼らが新しい農村を作っていく。

•パネリスト：ローカルジャーナリスト 田中輝美氏 地方に関心がある人が多いことを地方の人が信じていない。課題が魅力だから、何かできるのではないかと思っている。だからあなたに助けて欲しいと伝えるべき。

•パネリスト 京都移住計画代表 田村篤史氏 民間発の移住促進、衣食住ではなく居職住を支援している。人と地域をつなぐ水路を作りましょう、と。移住ドラフト会議はおもしろい。

•パネリスト：特別区長会事務局調査第1課長 菅野良平氏 東京23区基礎自治体930万人の世話をしている。何をやっても良い。ルール無し、国の総合戦略として、日本の元気が出ることを目指し、ゆるく活動している。

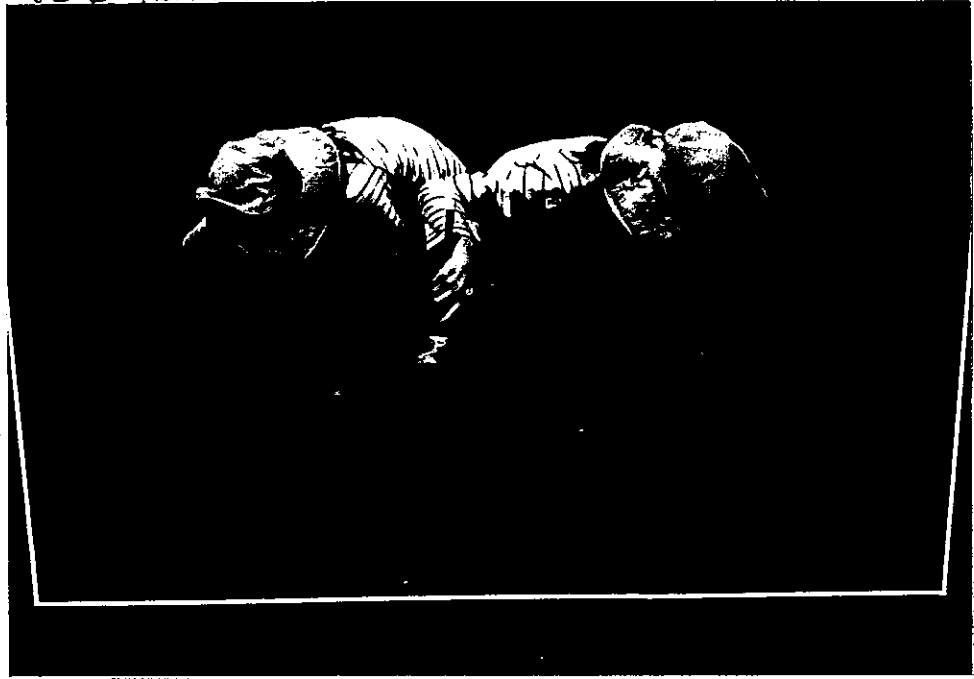
17:30 大会アピール 別紙のとおり 500人参加と発表された。

18:00 懇親会：赤れんがパーク4号棟

2日目

9:00 現地研修会

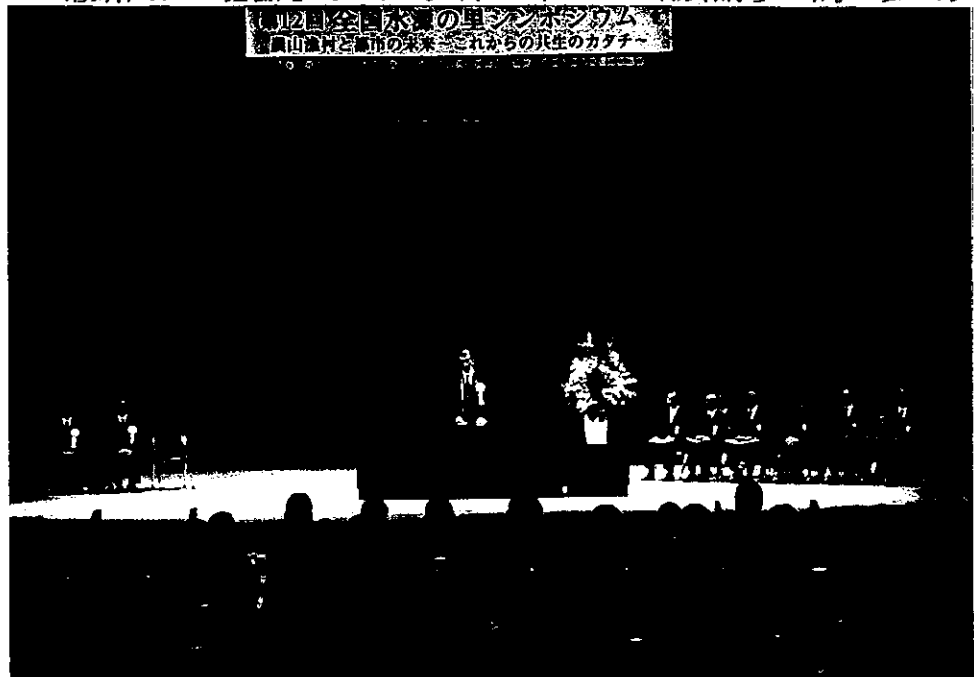
杉山コースに参加した。平成の名水100選に選ばれた水を利用して地域の活性化に取り組んでいる。山道を歩き、山のカフェで昼食までの3時間、山頂の集落を満喫した。昔は「ええー杉山に住んでるの?」と言われていたが、今は「いいなあ、杉山に住んでいるの?」と言われる。



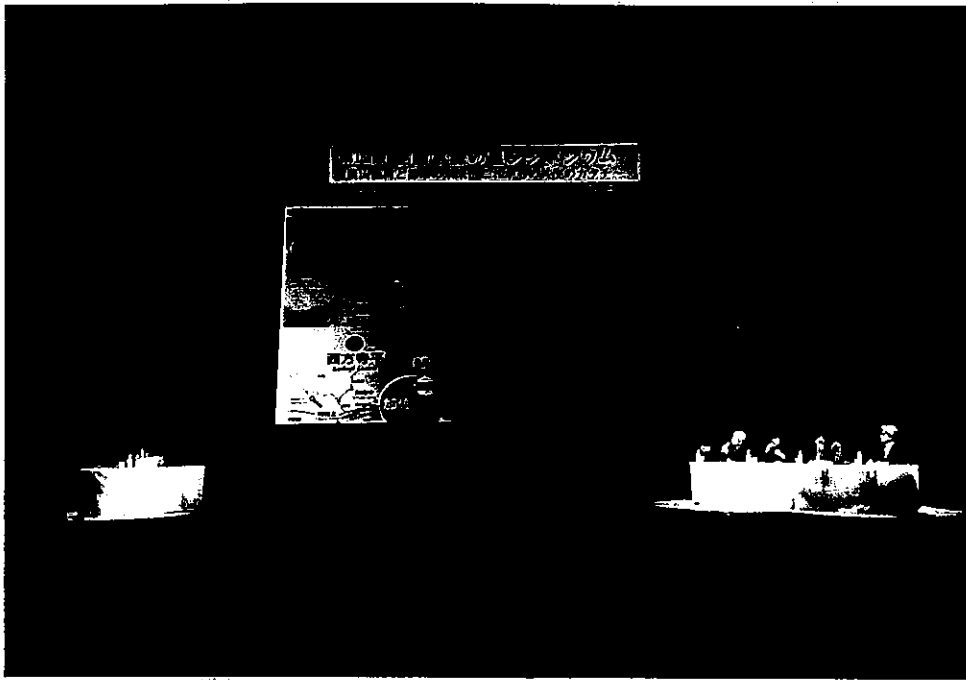
水源の里のコンサート 特選作 二人の女



高校生の書道パフォーマンス「私たちの舞鶴に帰ろう」と書いた



南会式曲の様子。其後同場所を同パフォーマンスで



パネルディスカッションの様子 司会者ターク、パネリスト5人



赤の糸がパーク ここも赤の舞鶴と呼ぶ、春の舞鶴に海がある。



赤の糸がパーク4層棟 ここが総務会が居た。

2日 現地研修会



現地研修会 杉山コ-2 公設VTR説明を受けた



城の名水100選の杉山 山の力をて昼食を取る 地元が運営している。


平成 30 年度 視察等の届出・報告書 (14~16)

届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
16	11/14~15	柿本健治	中元唯資、山本久恵	栃木県宇都宮市 (第 13 回全国市議会議長 会 研究フォーラム)

様式第1号

平成 30 年 10 月 30 日

真庭市議会
議長 長尾 修 殿

会派「未来」代表
真庭市議会議員 柿本 健治 

調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

- | | | |
|---|--------------|------------------------------|
| 1 | 区 分 | 調査研究 <u>研修会</u> 要請・陳情活動 |
| 2 | 訪 問 先 | 宇都宮市明保野町7-66
宇都宮市文化会館 |
| 3 | 内 容 | 平成 30 年度第 13 回全国議長会研究フォーラム参加 |
| 4 | 行 程 | 別紙のとおり 11/14-15 |
| 5 | 事務局から訪問先への依頼 | 必要 : <u>不要</u> |
| 6 | 参 加 者 | 中元唯資、山本久恵、柿本健治 |

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。



議長 副議長 局長 GL 係 回覧

様式第2号



報告書

平成31年1月18日

真庭市議会議長 長尾修殿

報告者 会派「未来」代表

真庭市議会議員 氏名 柿本健治



下記のとおり政務活動費を使用して、会派「未来」の研修会活動をしましたので、その結果を報告いたします。

1 日 時	自 平成30年11月14日 (午前・午後) 13時00分 至 平成30年11月15日 (午前・午後) 12時00分
2 場 所	宇都宮市文化会館 栃木県宇都宮市保野町7-66
3 用 件	第13回全国市議会議長会研究フォーラム
4 概 要	平成30年度第13回全国市議会議長会研究フォーラムin宇都宮が開催され、会派「未来」としての研修のため参加した。 研究フォーラムは、開会式で主催者を代表して挨拶に立った全国市議会議長会会長「札幌市議会 山田一仁」議長は、挨拶の中で、現在検討されている税制改正において「自動車税」の軽減策が検討されているが、貴重な地方税財源であり、減税が実施される場合、代替財源の確保が重要であり、各自治体議会においても対応が必要との趣旨のあいさつをされた。



基調講演では、中央大学法学部 宮本太郎教授の「地域共生社会」をどうつくるか 2040年を越える自治体のかたち」と題して講演を受けた。

基調講演で宮本教授は、2040年団塊ジュニアが高齢者となり現役世代が激減する社会の形を5項目に例えて開設された。

(1) 自治体が直面する2040年問題 重量上げ化と漏斗化の日本

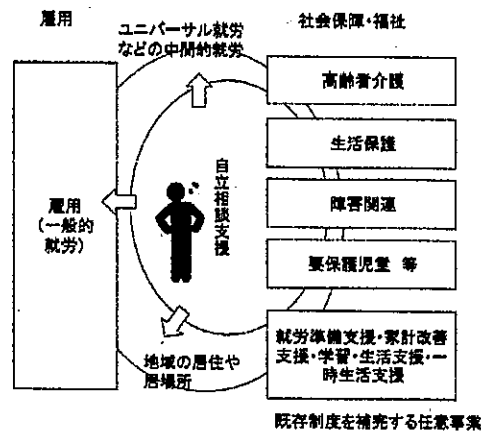
- ・就職氷河期世代がそのまま高齢化 マクロ経済スライドで基礎年金3割減
- ・65歳以上の生活保護自給者が86万人から200万人を超える見通しも
- ・高齢単身男性は会話頻度が少なく孤立が困窮を強める。
- ・現役世代も進学コストと雇用の不安定化などで力を発揮できない
- ・「支える側」「支えられる側」の二分法では、『重量挙げ』社会になる
- ・人口の地方から都市への流出が続く『漏斗化』が限界点となり地方と東京圏違う形で持続可能性が問われる。

(2) ピンチをチャンスに、チャンスを現実にする道

- ・人口減少社会がもたらすチャンス
- ・保護する福祉から皆を元気にする包括支援と活躍の場づくり
- ・2040年896の自治体が消える?
- ・「制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」の関係を越えて『我が事』として参画し地域を共に創っていく社会」

(3) 困窮と孤立を越えて「誰もが人財」のまちへ

- ・「誰もが人財」を目指す生活困窮者自立支援制度 目指すべきかたち



- ・静岡県富士市では「ユニバーサル就労推進条例」を2017年制定。大阪府でも検討中
- ・地域共生は「ご当地流」が大事「元気になるチャンス」は平等であるべき

(4) 定年後男性の地域デビュー支援が大事

- ・「年金兼業型」就業としての「PPAP」「ずっと出番のあるまち」へ
- ・「PPAP」は、グランドシッター(personalService)、年金(Pension)、自伐型林業(Agriculture)、技能取得(Professional

(5) 新しい家族縁や新しい地縁を作る

- ・空き家が増大するなかで、ケアと居住を繋げる地縁づくり
- ・「共生=ごちゃまぜ」の地縁づくり

チャンスを現実化するために政治の役割の大きい事を強調された。

引き続き、「議会と住民の関係について」をテーマに江藤俊昭山梨大学法学部教授をコーディネーターに、「今井 照」自治総研研究員、「本田 節」有限会社ひまわり亭代表取締役、「神田 誠司」朝日新聞大阪本社記者、「小林 紀夫」宇都宮市議会議長の4名をパネリストにパネルディスカッションが行われ、今井 照自治総研研究員からは、自治体政治の総量を上げる「市議会」の特質について、「市」における議会と住民との関係、市議会議員選挙の無投票当選の比率の推移や克服すべき課題などについての提起があった。

次に、本田 節(侑)ひまわり亭代表取締役からは、ボランティアで始めた弁当配達活動から仲間と共に「食・農・命」をテーマにした活動をしていく中、生涯現役でもっと生きがいや居場所づくりで地域の役に立ちたい」との思いから農家レストラン「ひまわり亭」を設立し活動してきた経験を踏まえた報告を受けた。

次に、神田 誠司朝日新聞記者からは、新聞記者の立場から「議会改革をたどって」の連載記事を始め各地域での取り組みを取材した経験を元に議会改革の取り組みの様子について報告を受けた。

次に、小林 紀夫宇都宮市議会議長からは、議会改革の取り組みとして、「一般質問における対面方式」や「執行部の反問権付与」等の実施。2013年に議会基本条例の制定を行い、議会全体としての政策形成能力を高める議会改革に取り組んでいることが報告された。

フォーラム2日目は、江藤 俊昭山梨大学法学部教授をコーディネーターに「課題討論」が行われ、報告者4名による各議会での取り組み状況が報告された。

❖事例報告者

- 1 久慈市議会 桑田 鉄男議長
- 2 新潟市議会 伊藤 健太郎主権者教育推進PTチームリーダー
- 3 犬山市議会 ビアンキ アンソニー議長
- 4 竹原市議会 道法 知江議長

1 久慈市議会 桑田鉄男議長からは、議会報告会の失敗から逆転の発想での議会改革の取り組みの報告。

【主な議会改革の取り組み】

- ◆前文方言の「議会じえじえ基本条例」
- ◆住民と議会が協働する場「かだって会議」
- ◆袖ヶ浦市議会との議会間友好小売祐協定
- ◆議会のICT化(タブレット端末)
- ◆災害時議会マニュアルの策定・発動
- ◆通年会期制の導入
- ◆議会の在り方検討会議の常設(定数・報酬)
- ◆委員会代表質問(委員連携型)の導入など市民参加型の議会改革推進の取り組みの報告。

2 新潟市議会 伊藤健太郎主権者教育推進PTリーダーからは、選挙権年齢が18歳に引き下げられたことを契機に、中学生・高校生を対象に選挙制度への理解のみならず、自分たちの住む地域社会の諸課題を見出し自らが参画しようとする意欲の醸成が求められており、議会として取り組んだ事が報告された。

3 犬山市議会 ビアンキ アンソニー議長からは、「市民参加」と議会機能向上の取り組みについて報告された。

議会に与えられた権限を最大限に行使する議会になるため3項目の取り組み。

- 1 議員間討議の促進の取り組み
- 2 「政策立案・政策提言力の向上」の取り組み
- 3 「市民参加」による、市民意見を吸い上げる取り組み

以上3項目の取り組みの状況を宇国を受けた。

4 竹原市議会 道法 知江議長からは、女性と議会の関係について ～お互いが尊重し認め合う議会に～ 自ら女性議員として・妻として・母としての活動を通じての報告があり、政治こそ 女性の力が必要との報告があった。

★第13回全国フォーラム開催写真

